

2022年3月期 第2四半期決算 連結業績概要

2021年11月5日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
佐瀬 克也

決算サマリー

2022年3月期第2四半期 業績概要

- 売上高は888億円(前四半期比6%増)。ノートPCなどの情報機器向け、サーバーなどの情報インフラ・産業機器向けを中心に増収。
- 営業利益は195億円(同29%増)。固定費の増加を操業度効果が上回り、増益。
- 売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも、半期及び四半期ベースで過去最高を更新。

2022年3月期 業績予想

- 8月に発表した通期業績予想を上方修正。
- 売上高は3,450億円(前期比15%増)、営業利益は640億円(同57%増)を予想。

2022年3月期第2四半期 業績概要

第2四半期は、第1四半期に対して増収増益となりました。

売上高は、同6%増の888億円でした。

主に、情報機器向けや情報インフラ・産業機器向けなどが増収に寄与しました。

また、営業利益は195億円でした。

固定費が増加したものの、販売数量増加などの操業度効果が上回り、同29%の増益となりました。

その結果、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の全てにおいて、四半期の過去最高を更新しました。

また、上期においても半期ベースの過去最高を更新いたしました。

2022年3月期 業績予想

8月に発表した通期業績予想を上方修正しました。

売上高は前期から15%増の3,450億円を、

営業利益は同57%増の640億円を計画しています。

第2四半期 連結業績概要(前四半期比)

百万円	2022年3月期 第1四半期		2022年3月期 第2四半期		増減	
売上高	83,836	100.0%	88,833	100.0%	4,996	6.0%
営業利益	15,147	18.1%	19,508	22.0%	4,361	28.8%
経常利益	15,174	18.1%	20,370	22.9%	5,196	34.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	12,969	15.5%	15,479	17.4%	2,510	19.4%
対米ドル期中平均レート	109.00円		110.10円		1.10円円安	
為替変動による影響額	売上高 +7億円、営業利益 +6億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,138		3,219		81	2.6%
設備投資額	7,595		9,076		1,480	19.5%
減価償却費	7,294		7,677		382	5.2%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

3

2022年3月期第2四半期の業績は

売上高888億円、営業利益195億円、経常利益204億円、
親会社株主に帰属する当期純利益155億円となりました。

期中平均の為替レートは1米ドル110.10円、前四半期に対して1.10円円安でした。

これにより、売上高に対しプラス7億円、

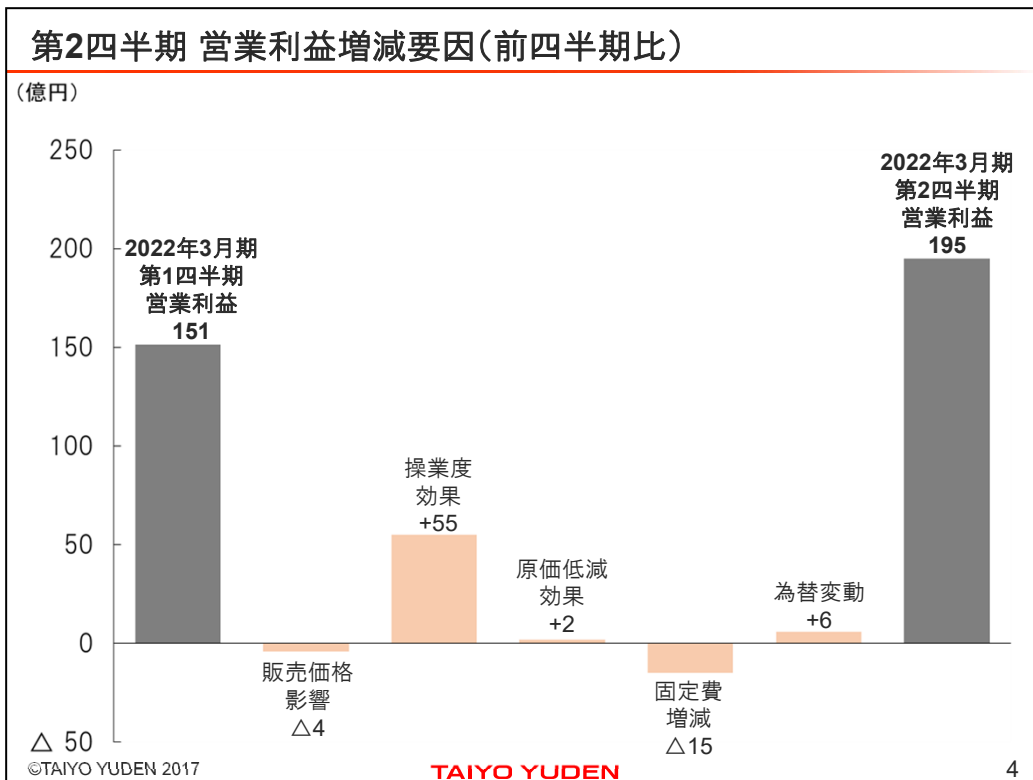
営業利益に対してプラス6億円の影響がありました。

アジア通貨安により、営業利益への影響がやや大きく出ました。

研究開発費は、前四半期からやや増加して32億円でした。

設備投資額は、前四半期から15億円増加し、91億円となりました。

減価償却費は77億円で、前四半期に対して4億円増加しました。



営業利益の増益要因として、操業度効果が55億円ありました。
操業度効果には、販売数量増減やミックス改善、棚卸資産の増減などが含まれています。

なお、9月末の全社の棚卸資産は、為替影響など利益に影響がない部分を除いた実態ベースで6月末より56億円増加しました。
このほか、為替影響6億円、原価低減効果2億円が増益に寄与しました。

一方、減益要因として4億円の販売価格影響がありましたが、
前四半期に引き続き、値下がりペースは通常に比べて緩やかに推移しています。
また、減価償却費や人件費などの増加により、固定費は15億円増加しました。

これらの結果、営業利益は第1四半期から44億円増加し、
195億円となりました。

第2四半期 製品別売上高(前四半期比)

百万円	2022年3月期 第1四半期		2022年3月期 第2四半期		増減	
コンデンサ	53,209	63.5%	59,035	66.5%	5,826	10.9%
インダクタ	11,386	13.6%	12,863	14.5%	1,477	13.0%
複合デバイス	13,977	16.7%	11,959	13.5%	△2,018	△14.4%
その他	5,263	6.3%	4,975	5.6%	△288	△5.5%
合計	83,836	100.0%	88,833	100.0%	4,996	6.0%

第2四半期 製品別売上高(前四半期比)

(億円)



■ **コンデンサ** (前四半期比 +10.9%)

ノートPCなどの情報機器、サーバーなどの情報インフラ・産業機器を中心に全ての用途分野で売上が増加。

■ **インダクタ** (前四半期比 +13.0%)

全ての用途分野で売上が拡大。スマートフォンなどの通信機器向けや民生機器向け、情報機器向けが特に増加した。

■ **複合デバイス** (前四半期比 △14.4%)

通信デバイス(FBAR/SAW)、各種モジュールともに減少。

■ **その他** (前四半期比 △5.5%)

アルミニウム電解コンデンサの売上が減少。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

6

コンデンサの売上高は、前四半期比11%増の590億円でした。
ノートPCやタブレット端末などの情報機器向け、
サーバーや基地局通信装置などの情報インフラ・産業機器向けを中心に
全ての用途分野で売上が増加しました。

インダクタの売上高は、前四半期比13%増の129億円でした。
季節的に需要期を迎えたスマートフォンなどの通信機器向け、
民生機器向け、情報機器向けをはじめ、
全ての用途分野で売上を伸ばしました。

複合デバイスの売上高は、前四半期比14%減の120億円でした。
一部地域で生産調整があったスマートフォン向けの
通信デバイス(FBAR/SAW)が減少したほか、各種モジュールも減収となりました。
なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は60-65%でした。

その他は、アルミニウム電解コンデンサの売上減少などにより、
前四半期比6%減の50億円となりました。

用途分野別売上構成



用途分野別の売上構成比は、ノートPCやタブレット端末などの情報機器向けが前四半期から2ポイント増加し16%となりました。

一方、スマートフォンなどの通信機器向けは、複合デバイスの売上減の影響によって前四半期から2ポイント減少し、30%となりました。

その他の用途分野の売上構成比は前四半期から大きな変化はなく、情報インフラ・産業機器向けが23%、自動車向けが21%、民生機器向けが10%でした。

上期 連結業績概要(前年同期比)

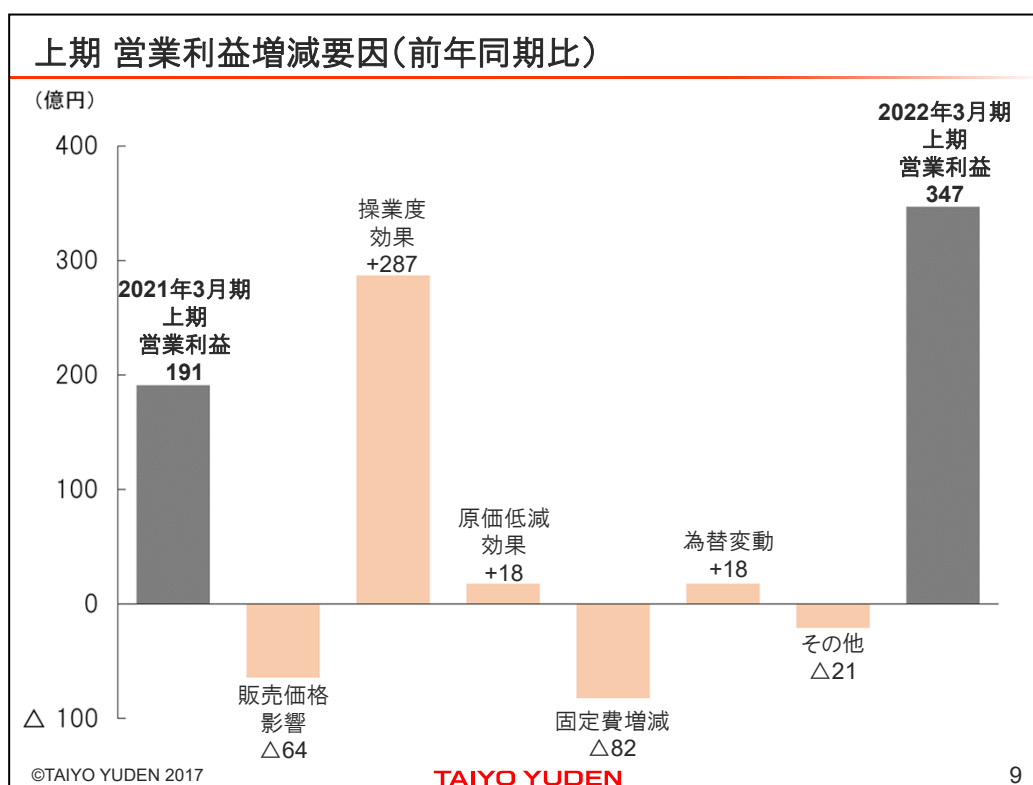
百万円	2021年3月期 上期		2022年3月期 上期		増減	
売上高	140,222	100.0%	172,670	100.0%	32,447	23.1%
営業利益	19,126	13.6%	34,655	20.1%	15,528	81.2%
経常利益	18,183	13.0%	35,544	20.6%	17,360	95.5%
親会社株主に 帰属する当期純利益	11,442	8.2%	28,448	16.5%	17,006	148.6%
対米ドル期中平均レート	107.22円		109.55円		2.33円円安	
為替変動による影響額	売上高 +49億円、営業利益 +18億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	6,207		6,358		150	2.4%
設備投資額	27,998		16,671		△11,326	△40.5%
減価償却費	13,877		14,972		1,094	7.9%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

8

2022年3月期上期の売上高は1,727億円で、
前年同期に対して23%の増収となりました。
営業利益は同81%増の347億円、
経常利益は同96%増の355億円、
親会社株主に帰属する当期純利益は284億円で、
前年同期比149%の増加となりました。



操業度効果287億円、原価低減効果18億円、
為替影響18億円が増益に寄与しました。

一方、減益要因として64億円の販売価格影響がありました。
また、生産能力拡大に伴い、人件費を中心に固定費が82億円増加しました。
加えて、前年同期に新型コロナウイルス感染症対策費用21億円を
一過性の費用として特別損失に計上したことも、
今期の営業利益に対する減益要因となっております。

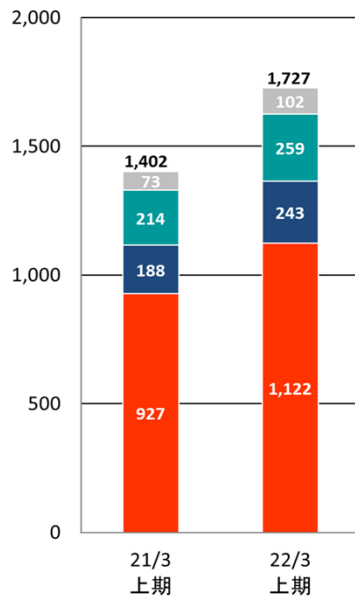
これらの結果、営業利益は2021年3月期上期から155億円増加し、
347億円となりました。

上期 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2021年3月期 上期		2022年3月期 上期		増減	
コンデンサ	92,672	66.1%	112,244	65.0%	19,572	21.1%
インダクタ	18,831	13.4%	24,250	14.0%	5,418	28.8%
複合デバイス	21,406	15.3%	25,936	15.0%	4,530	21.2%
その他	7,312	5.2%	10,239	5.9%	2,926	40.0%
合計	140,222	100.0%	172,670	100.0%	32,447	23.1%

上期 製品別売上高(前年同期比)

(億円)



- **コンデンサ** (前年同期比 +21.1%)
 自動車向けを中心に全ての用途分野で売上増加。
- **インダクタ** (前年同期比 +28.8%)
 情報機器向けや通信機器向け、自動車向け、情報インフラ・産業機器向けが増加。
- **複合デバイス** (前年同期比 +21.2%)
 通信デバイス(FBAR/SAW)、各種モジュールが増加。
- **その他** (前年同期比 +40.0%)
 自動車向けのアルミニウム電解コンデンサが売上増加。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

11

コンデンサは自動車向けを中心に全ての用途分野で売上を拡大し、前年同期比21%増の1,122億円でした。

インダクタは前年同期比29%増の243億円となりました。
 情報機器、通信機器、自動車、情報インフラ・産業機器といった幅広い用途分野で売上を伸ばしました。
 民生機器向けはわずかに減少しました。

複合デバイスは、
 通信デバイス(FBAR/SAW)、各種モジュールともに増加し、
 前年同期比21%増の259億円でした。

その他は、子会社であるエルナーの自動車向けアルミニウム電解コンデンサの売上拡大により、前年同期比40%増の102億円でした。

2022年3月期 連結業績予想

2022年3月期 連結業績予想(前回予想比)

百万円	2022年3月期 前回予想			2022年3月期 今回予想		
	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期
売上高	175,000	158,000	333,000	172,670	172,330	345,000
営業利益	33,000	22,000	55,000	34,655	29,345	64,000
経常利益	33,000	21,500	54,500	35,544	28,455	64,000
親会社株主に 帰属する当期純利益	25,000	14,500	39,500	28,448	19,551	48,000
対米ドル期中平均レート	109.00円	105.00円	107.00円	109.55円	110.00円	109.78円
研究開発費	—	—	13,000	6,358	6,642	13,000
設備投資額	—	—	50,000	16,671	33,329	50,000
減価償却費	—	—	31,500	14,972	16,528	31,500

・ 8月に発表した業績予想を上方修正。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

13

上期の実績と今後の需要予測等に基づき、
2022年3月期の通期業績予想を、
8月に発表したものから上方修正しました。

売上高は3,450億円、営業利益640億円、経常利益640億円、
親会社株主に帰属する当期純利益は480億円を予想しています。

第3四半期以降の為替レートは、1米ドル110円の前提です。
研究開発活動やコンデンサを中心とした能力拡大は計画通り進めており、
研究開発費、設備投資額、減価償却費の予想は変更していません。

中期的な電子部品の需要は、5Gの普及や自動車の電装化などに伴って
拡大が続いていくという見方に変化はありません。
需要増に対応するため、最先端商品、高信頼性商品の開発や生産・販売拡大に
引き続き注力していきます。

2022年3月期 連結業績予想(前期比)

百万円	2021年3月期		2022年3月期 予想		増減	
売上高	300,920	100.0%	345,000	100.0%	44,080	14.6%
営業利益	40,766	13.5%	64,000	18.6%	23,234	57.0%
経常利益	41,247	13.7%	64,000	18.6%	22,753	55.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	28,615	9.5%	48,000	13.9%	19,385	67.7%
対米ドル期中平均レート	105.97円		109.78円		3.81円円安	
研究開発費	12,550		13,000		450	3.6%
設備投資額	49,699		50,000		301	0.6%
減価償却費	29,256		31,500		2,244	7.7%

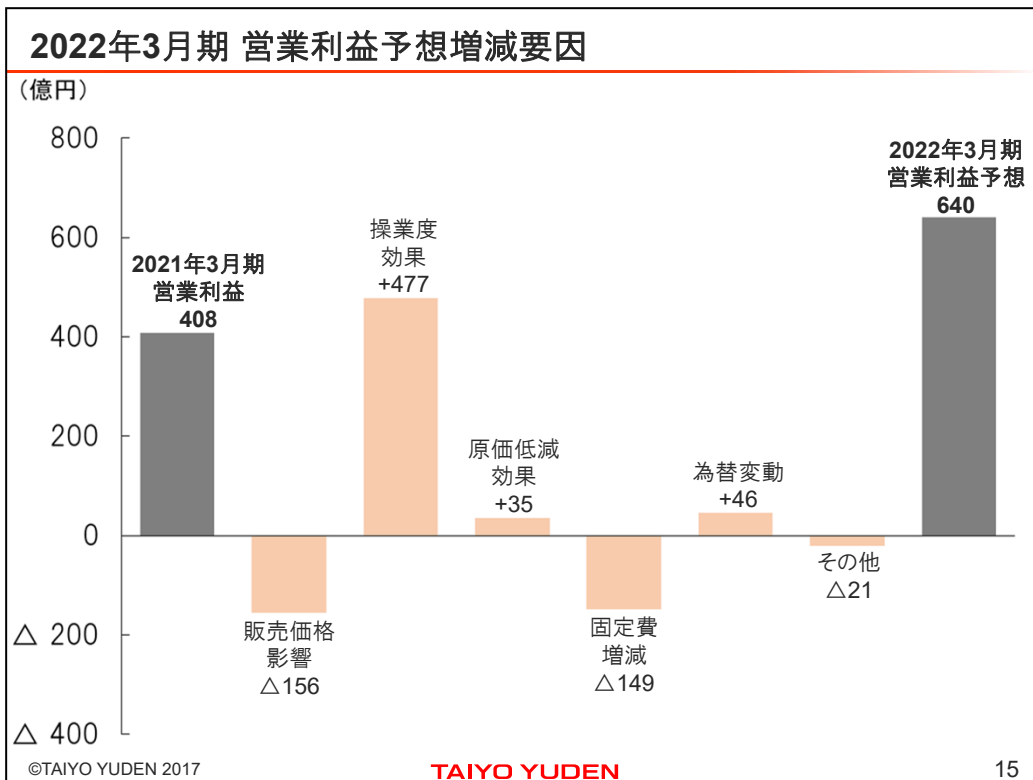
・ 8月に発表した業績予想を上方修正。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

14

前期比では、売上高が15%の増収となり、
各段階利益は50%以上の増益となる見込みです。



操業度効果477億円、原価低減効果35億円、
 為替変動46億円が今期の増益に寄与する見込みです。
 なお、3月末の棚卸資産は、為替影響など利益に影響がない部分を除いた
 実態ベースで前期末に対して120億円程度増やす計画です。

一方、減益要因は、販売価格の影響156億円、
 固定費の増加149億円、その他21億円です。

その結果、営業利益は前期に対して232億円増加し、640億円となる見込みです。

2022年3月期 製品別売上高予想(前回予想比)

百万円	2022年3月期 前回予想			2022年3月期 今回予想		
	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期
コンデンサ	114,500	107,000	221,500	112,244	116,256	228,500
インダクタ	24,000	20,500	44,500	24,250	21,750	46,000
複合デバイス	26,000	21,500	47,500	25,936	23,564	49,500
その他	10,500	9,000	19,500	10,239	10,761	21,000
合計	175,000	158,000	333,000	172,670	172,330	345,000

通期の製品別売上高予想は、コンデンサが2,285億円、インダクタは460億円、複合デバイスは495億円、その他は210億円で、いずれも8月時点の予想から上方修正しました。

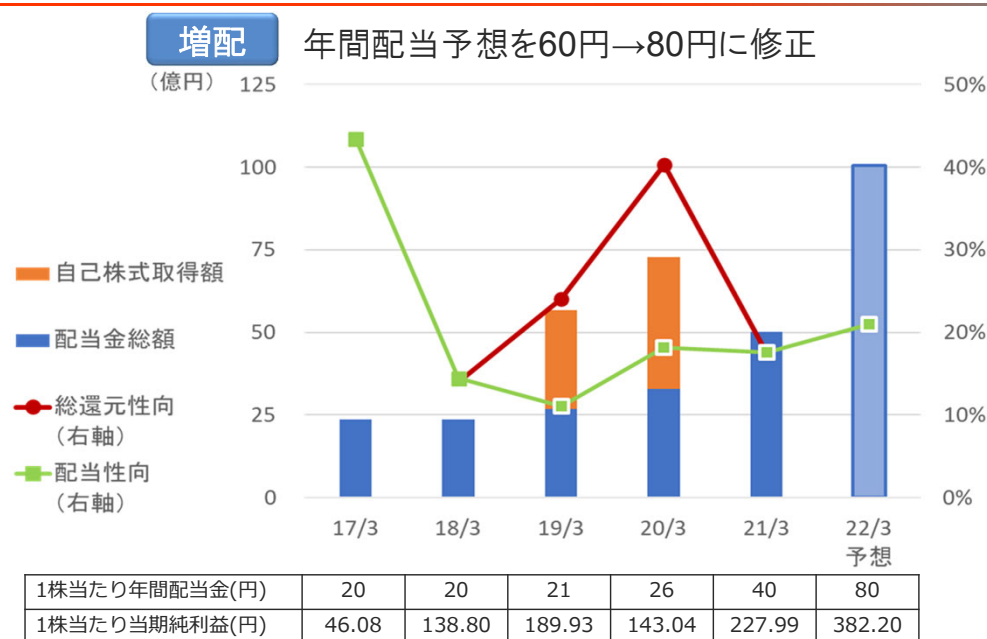
第3四半期の各製品の売上イメージは、第2四半期に対してコンデンサが0-5%の増加、インダクタは8-12%の減少、複合デバイスは横ばい、その他が10-15%の増加を見込んでいます。全社合計では、第2四半期とほぼ同水準の売上を予想しています。

2022年3月期 製品別売上高予想(前期比)

百万円	2021年3月期		2022年3月期 予想		増減	
コンデンサ	195,198	64.9%	228,500	66.2%	33,302	17.1%
インダクタ	41,564	13.8%	46,000	13.3%	4,436	10.7%
複合デバイス	46,930	15.6%	49,500	14.3%	2,570	5.5%
その他	17,227	5.7%	21,000	6.1%	3,773	21.9%
合計	300,920	100.0%	345,000	100.0%	44,080	14.6%

前期比では、コンデンサが17%増、インダクタが11%増、複合デバイスは6%増、その他は22%増となる計画です。全社では15%の増収を見込んでいます。

株主還元



安定的な配当性向30%の実現を目指す

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

18

業績予想の上方修正に伴い、
年間配当予想を60円から80円に上方修正しました。
第2四半期末と期末で、それぞれ30円から40円に変更いたしました。

当社は、株主の皆様への利益還元の充実を経営の最重要課題のひとつと位置付けています。

今後も、将来の成長のための設備投資や研究開発などを行いつつ、
配当性向30%を安定的に実現することを目指してまいります。

補足資料

当社の事業活動への影響は軽微

販売・調達

顧客企業やサプライヤの生産動向、各機器の最終需要などを注視。

物流

一部で物流リードタイムの長期化や物流費の上昇などの影響が継続。代替便や代替ルートによる輸送で対応。

生産

マレーシアでの感染拡大、行政当局による活動制限令により、6月と8-9月に同国内の生産子会社で稼働が制限された。
現在は、ほぼ通常稼働に回復。

連結業績推移(四半期)

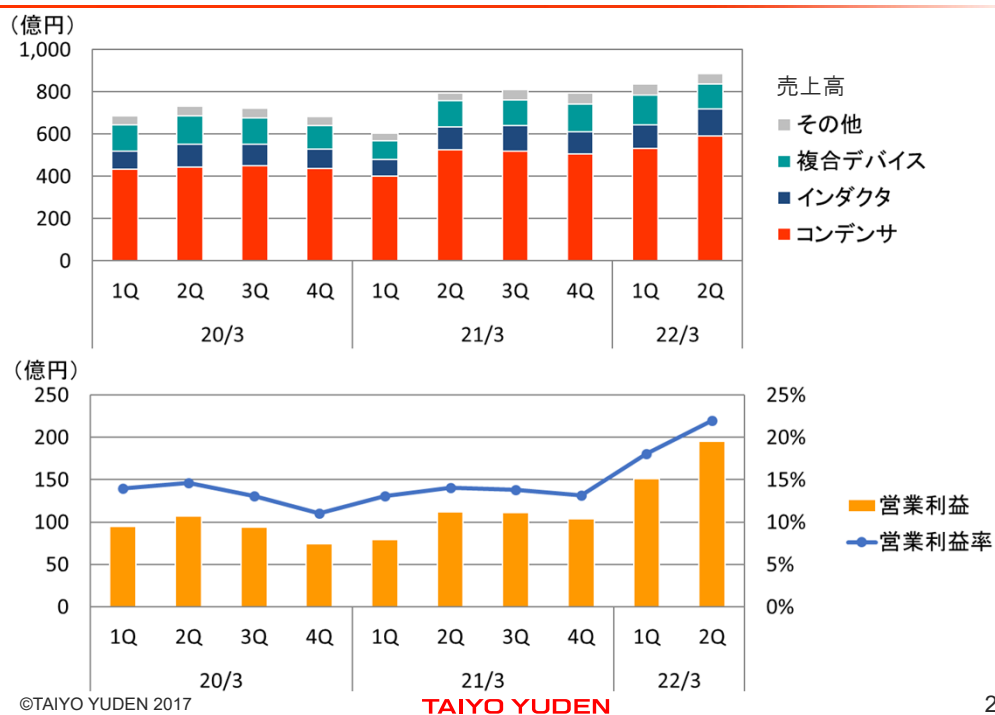
百万円	2020年3月期				2021年3月期				2022年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	68,635	73,272	72,187	68,233	60,493	79,728	81,226	79,471	83,836	88,833
コンデンサ	43,338	44,473	44,907	43,738	40,075	52,596	51,895	50,630	53,209	59,035
インダクタ	8,633	10,742	10,303	9,090	7,928	10,903	12,230	10,501	11,386	12,863
複合デバイス	12,523	13,436	12,621	11,226	9,075	12,330	12,311	13,213	13,977	11,959
その他	4,139	4,620	4,354	4,178	3,413	3,899	4,788	5,125	5,263	4,975
営業利益	9,595	10,703	9,446	7,431	7,923	11,203	11,199	10,440	15,147	19,508
経常利益	8,846	10,330	9,152	6,835	7,371	10,812	11,422	11,641	15,174	20,370
親会社株主に 帰属する 当期純利益	7,151	8,180	4,666	△1,975	4,541	6,900	8,383	8,789	12,969	15,479
対米ドル 期中平均レート	110.95円	107.58円	108.17円	109.54円	107.61円	106.82円	105.15円	104.31円	109.00円	110.10円

©TAIYO YUDEN 2017

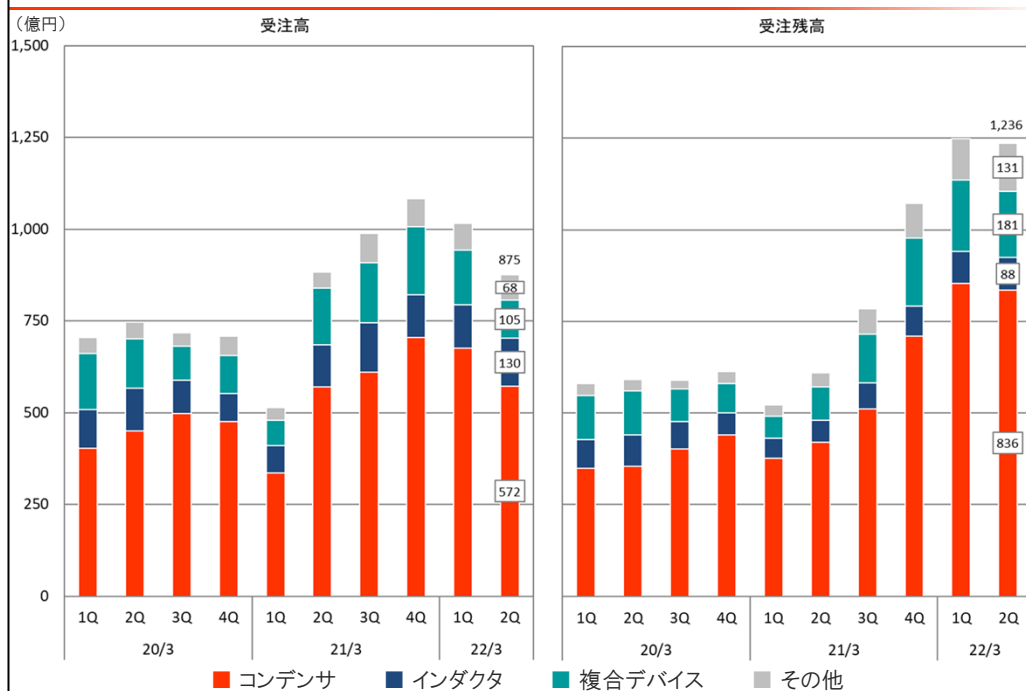
TAIYO YUDEN

21

連結業績推移(四半期)



受注高・受注残高推移(四半期)



©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

23

当資料に記載されている、当社（太陽誘電株式会社、および当社グループ）に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN

©TAIYO YUDEN 2017